

神経研究の進歩 既刊 総目次

1956年～1960年（1巻1号～5巻1号）

*56年1月 1巻 1号 神経系疾患の診断法(I)

売 切

自律神経の診断的応用とその限界……………沖中重雄・他
脳波による神経系疾患の診断……………佐野 圭司
筋電図（臨床応用とその限界）……………島津 浩
脊髄造影……………三木威勇治・他
髄液の臨床……………新城之介
眼 底……………鹿野 信一

〔総説〕 平衡感覚批判……………福田 精
〔展望〕 大脳皮質について……………細川 宏
イオンの active transport について……………佐藤 昌康
神経系の組織病理学……………猪瀬 正
中枢神経系の神経体液学……………吉川 政己
神経病学臨床の進歩……………後藤 平
〔臨床講義〕 脊髄空洞症……………沖中重雄・他
〔実験法〕 電 極……………平尾 武久
髄液比重の精密な新測定法とその意義……………中沢房吉・他
〔原著〕 肝脳疾患の本態に関する研究

第5報……………豊田正輝・他

〔症例報告〕 オリーブ・橋・小脳萎縮症の
二剖検例……………中村晴臣・他
癌性脳膜炎の一例……………服部 尚史
ソ連邦における脳波分析法の
現状をよんで……………平尾 武久

*56年4月 1巻 2号 神経系疾患の診断法(II)

売 切

脳疾患のレ線診断

（単純撮影及び脳室造影法）……………荒木千里・他

脳血管撮影（第1編）……………佐野 圭司
運動麻痺（特に上位運動ノイロン

傷害による片麻痺）……………豊倉 康夫
知覚障害の診断……………阿部鏡太郎
反射診断の実際……………椿 忠雄
神経症の診断（特に一般臨床における
鑑別を中心に）……………中川 四郎

〔総説〕 臨床医学における意識障害の概念……………新福 尚武
〔展望〕 解剖と生理との境界について……………小島 徳造

神経筋接合部の生理……………佐藤 昌康
神経系の組織病理学……………猪瀬 正
神経病学臨床の進歩……………日高虎之助

〔臨床講義〕 神経症状を伴う癌……………中沢房吉・他
〔実験法〕 増巾……………平尾 武久
〔原著〕 発汗の中枢性機序に関する

臨床病理学的研究……………勝木司馬之助・他
脳卒中昏睡時の脳循環及び代謝……………新城之介・他

*56年8月 1巻 3号 代謝障害と神経疾患(I)

500円

間脳下垂体系疾患の臨床……………楠五郎雄・他
間脳下垂体系疾患の病理……………吉田 和夫
脱髄現象の脂質代謝……………祖父江逸郎・他
高張糖液静注による痙攣脳波及び Leão の
現象の出現とその臨床的意義……………島本多喜雄・他
頭部外傷後の代謝異常……………加藤 静雄
パラチオン中毒……………茂在 敏司

脳血管撮影（第2編）……………佐野 圭司

〔展望〕 外眼筋及び内眼筋を支配する

核の局在……………大谷 克己
知覚神経衝撃の発生とその遠心性制御……………佐藤 昌康
ドイツに於ける脳波学の現状……………島蘭 安雄
組織病理学（展望と概観）……………猪瀬 正
パーキンソン症候群研究の進歩……………日高虎之助
〔実験法〕 機械的現象の描記法……………真島 英信
電気刺激装置……………竹内 昭

*56年12月 1巻 4号 代謝障害と神経疾患(II)

500円

糖尿病における神経系障害……………豊倉 康夫
神経系疾患とカリウム代謝……………豊田正輝・他
ビタミン B₁ 欠乏と神経系障害……………山本 英夫

〔原著〕 神経系疾患の臨床遺伝学研究……………村上 氏広
〔シンポジウム脱髄性疾患〕 多発性硬化症の

臨床知見……………祖父江逸郎・他
所謂球後視束炎症例の臨床的検討
並びに脱髄性疾患を疑わしむる
症例について……………植木幸明・他

多発硬化の臨床的鑑別について……………野村章恒・他	
脱髄性脳脊髄炎の剖検例……………伊藤 正雄	
外傷に続発した視束脊髄炎の1例	
——組織学的所見……………柴田 収一	
脱髄現象の実験的研究……………祖父江逸郎・他	
〔シンポジウム——小脳〕 小脳の構造について	
（二、三の問題）……………小川 鼎三	
小脳の膠質細胞……………辻山 義光	
小脳の臨床病理……………安芸 基雄	
小脳の臨床病理……………安芸 基雄	
〔学会報告〕 第二回国際神経病理学会	
に出席して……………玉丸 勇	
米国に於ける中枢神経生理学研究の	
一断面……………稲永 和豊	
〔展望〕 血管分布から見た	
視床下部下垂体系……………和佐野武雄・他	
神経細胞の生理……………佐藤 昌康	
昏睡の機作……………吉川 政己	
57年4月 2巻1号 脳の生理に関する	
シンポジウム 売 切	
〔脳の外科を中心に〕 人大脳半球切除術の	
実例について……………植木 幸明	
片側性脳性小児麻痺に対する	
脳半球切除について……………西本 詮	
前頭葉ロボトミー……………広瀬 真雄	
劣位半球後部頭頂葉への外科的侵襲……………小林八郎・他	
大脳皮質分野4, 分野6切除の運動並びに	
自律神経機能に及ぼす影響について……………陣内伝之助	
側頭葉と精神運動発作……………佐藤 圭司	
〔電気的現象を中心に〕 神経細胞の	
電気活動……………荒木辰之助	
脳活動の微視的研究……………内山 平一	
脳波から見た脳の「変換機能」について……………佐藤 謙助	
〔化学的現象を中心に〕 脳活動の	
生化学的变化……………塚田 裕三	
下等動物脳の呼吸代謝……………高橋 泰常	
慢性刺激に対する脳組織の化学的反応……………臺 弘	
電撃痴呆における脳の化学的变化……………山田 禎一	
〔原著〕 神経筋伝達に及ぼす	
筋伸長の効果について……………竹内 宣子	
臨床上進行性筋ジストロフィーに	
極めて類似せる疾患……………茂在敏司・他	
Wartenberg 教授の逝去を悼む……………沖中 重雄	
'57年10月 2巻2号 脳腫瘍 500円	
脳腫瘍総論……………中田 瑞穂	

脳腫瘍の組織培養……………中井準之助・他	
転移性脳腫瘍の臨床病理学的研究……………豊倉康夫・他	
脳腫瘍のレ線診断〔頭蓋骨単純撮影, ユード油	
脳室造影法, 空気脳室撮影法〕……………荒木千里・他	
脳腫瘍における脳波検査の意義……………佐野 圭司	
脳腫瘍の診断〔Isotope〕……………森安 信雄	
寄生虫による所謂脳偽腫瘍……………浅野 芳登	
〔綜説〕 動物に於ける	
条件反射の脳波的研究……………吉井直三郎	
〔展望〕 脳の定位固定装置……………時実 利彦	
Korey & Nurnberger 著	
「神経化学」書評(1)……………吉川 政己	
神経病学臨床の展望……………新城之介・他	
〔検査〕 脳検査……………佐野 圭司	
〔座談会〕 神経病の診断をめぐる	
……………祖父江逸郎・椿忠雄・豊倉康夫	
新城之介・鹿野信一・中川四郎	
阿部鏡太郎・佐野圭司・島津浩	
〔原著〕 鎮痛薬の働きとその応用電気	
生理学的に見た鎮痛薬の作用機序	
に関する再検討……………安原 基弘	
Wilson 氏病の一症例に関する	
組織化学的検討……………有岡巖・他	
視力障害顕著な脳下垂体部腫瘍症例に対する	
改良経鼻手術成績……………隠明寺 寛	
〔症例報告〕 脊髄性進行性筋萎縮症の3例……………福士博・他	
'58年3月 2巻3号 第1回国際神経科	
学会展望 (I) 500円	
第1回国際神経科学会に出席して……………内村 祐之	
錐体外路系の病理	
錐体外路系の解剖と生理 (Mettler)	
錐体外路系の解剖病理学 (Greenfield)	
震顫麻痺とパルキンソンニスムスの種々の型 (本態性震顫	
を含めた) の病理解剖について (Hassler)	
運動の調整系 (Granit)	
錐体外路系疾患の生理学的解釈と脳外科的知見について	
(Bucy, Walker, Narabayashi & Guiot)	
いわゆる錐体外路性疾患の薬物療法及び討論	
(Couto, Sigwald)	
神経病学に於ける意識 (1)	
意識と Centrencephalic Organization (Penfield)	
神経疾患による意識状態の変化 (Alajouanine)	
剖検より見た意識障害について (de Ajuriaguerra)	

意識変動の生理学と病理学に関する二、三の問題

(Bremer)

視床下部に起因する意識障害の病理解剖学 (Orthner)

意識の問題に対する生理学研究の寄与 (French)

白質変性に起因する意識変状 (Strich)

肝不全に於ける意識変状 (Sherlock)

脳外科の経験よりみた意識 (Bailey)

意識現象の神経学的構造 (Buscaino)

〔綜説〕 扁桃核の生理……………時実 利彦

〔展望〕 欧米に於ける

原因不明の散在性脳炎について……………山本 達也

〔原著〕 吾々の考案せる新触覚計

"Optical lever esthesio-algesimeter"

の構造について……………阿部鏡太郎・他

皮膚単知覚点を中心とした触角及び

痛覚の臨床生理学的研究……………阿部鏡太郎・他

皮膚知覚機能と自律神経に関する研究……………岡本進・他

視床症候群の検討……………白水重義・他

'58年5月 2巻4号 第1回国際神経科

学会展望 (II)

売 切

第1回国際神経科学会印象記……………沖中 重雄

多発性硬化症と脱髄疾患

多発性硬化症の地理的並びに疫学的考察

(Kurland L. T., Alter M. & Pearce Baiyle)

実験的急性散在性脳脊髄炎の免疫化学的機序並びにそれ

の多発性硬化症との関係 (Elvin A. Kabat)

脱髄性疾患の神経化学 (G. W. F. Edgar)

多発性硬化症における家族性発病と遺伝的因子

(Douglas MaAlpine)

脱髄疾患の病理

多発硬化症と人の急性、慢性脳脊髄炎との関係

(G. Peters)

多発硬化症と汎発硬化症及びその他の人の Leucoen-

cephopathiesとの神経病理学的な関連性 (T. Fog)

人間の多発硬化症と実験的無酸素症性及び中毒症脳白質

症との神経病理学的関係 (C. E. Lunmsden)

実験的アレルギー性脳脊髄炎との多発硬化症との神経病

理学的関係 (L. Roizin et al)

Main Speeches に対する討論 (G. Schaltenbrand et al)

Synthesis (A. Ferraro)

放射能の神経病理学

宇宙線 (H. Yagoda et al)

胎生期神経系 (S. P. Hicks et al)

生理学的ならびに生化学的方向

(D. Nachmansohn et al)

脳腫瘍 (U. Cocchi et al)

中枢神経系 (H. Shiraki et al)

視床下部, 脳下垂体, 小脳 (J. C. Sloper et al)

Synthesis (W. Haymaker)

〔原著〕 小脳半側摘除後脳幹及び脊髄に見られる

細胞変化について……………萬年 甫

黒核障害例の臨床, とくに精神構造……………立津 政順

Dysostasis craniofacialis (Crouzon 病)

について……………川淵純一・他

特発性内頸動脈閉塞症について……………鬼頭昭三・他

〔展望〕 網膜の神経生理……………富田恒男・他

'58年10月 3巻1号 第1回国際神経科

学会展望 (III)

500円

国際脳癲癇対策連盟第8回総会 (1957年7月) 報告

(A. E. Walker et al)

第4回国際脳波及び臨床神経生理学会シンポジウム集

1. 正常及び病的筋電図の説明 (F. Buchthal et al)

2. 人及び動物脳波の個体発生 (P. Kellaway et al)

3. 局所脳病理に関連する脳波 (W. G. Walter et al)

4. 小発作の病理と臨床面 (J. D. Fortuyn et al)

5. 条件反射の脳波 (吉井直三郎・他)

第1回国際脳神経外科学会シンポジウム

定位的脳手術の方法 (E. Sachs et al)

神経病学における意識 (2)

意識変化と脳波との相関

意識障害の動物実験的基礎と器質性脳疾患を除いた機

能的意識障害の脳波所見 (R. Jung)

意識と意識変化 (臨床脳波による体系づけ)

(H. Fischgold)

〔原著〕 黒核障害例の病理,

とくに黒核に始まる神経線維群の変化……………立津 政順

黒核障害例にみられる神経症状,

とくに精神障害の病理学的背景……………立津 政順

唾液条件反射の脳波学的研究……………前野 重喜

〔旅行記〕 ヨーロッパの

脳研究施設を訪ねて (2)……………萬年 甫

'59年1月 3巻2号 肝脳疾患 (I)

500円

肝脳疾患の臨床

特に所謂「特殊型」について……………椿 忠雄

Eck氏癰における中枢神経症状……………佐藤 倚男
 Kayser-Kleischer Ring について……………桑島治三郎
 肝循環から見た肝脳疾患……………上田英雄・他
 中枢神経疾患,

殊に肝脳疾患と Ceruloplasmin……………勝木司馬之助・他
 肝脳疾患と金属……………茂在 敏司
 肝脳疾患と Genetics……………山内 典男
 肝脳疾患の組織学……………猪瀬 正
 肝脳症候群の治療……………高橋忠雄・他
 実験的肝脳疾患に関する研究……………恩村 雄太

【条件反射】 脳波と条件反射……………吉井直三郎・他
 人間の唾液条件反射……………古武弥正・他
 条件反射性インシュリン低血糖……………今泉恭二郎
 条件反射の

精神神経科臨床への応用……………白藤 美隆
 【原著】 出血性硬膜脳炎……………岩崎 秀之
 反復誘発筋電図法……………堀 浩・他
 【症例報告】 ハンチントン舞踏病の
 1 剖検例……………松岡竜典・他

’59年 4月 3巻 3号 肝脳疾患・小脳
 1000円

肝脳疾患 II

中枢神経障害における肝機能……………勝木司馬之助・他
 肝脳疾患とアミノ酸代謝……………村上精次・他
 肝脳疾患と脳波……………島園 安雄

小 脳

小脳の解剖——その現段階……………萬年甫・他
 小脳内在活動の研究……………須田 勇
 小脳生理学の展望

——前葉遠心系を中心として……………高比良英輔
 小脳の自律神経機能……………伴 忠康
 小脳の機能検査法……………吉倉 範光
 遺伝性失調症の遺伝と臨床……………辻村福之助
 小脳の血管性障害……………加瀬 正夫
 小脳の腫瘍……………佐野圭司・他
 脊髄小脳変性症の臨床知見補遺……………椿忠雄・他
 P. Marie 氏病の病理所見……………五島雄一郎
 黒内障性白癩の小脳の病理……………猪瀬正・他
 【原著】 脳の血管障害と血小板……………豊田正輝・他
 小児癲癇その成因並びに
 熱性痙攣との関係について……………有馬 正高
 てんかん症状としての
 病的笑いについて……………福山幸夫・他

Diffuse Progressive Infantile Poliodystrophy
 of the Cerebrum (英文論文)……………向井 紀二
 特異な所見を呈した汎発性硬化症の1例……………石井毅・他
 脱髓鞘性疾患における血清蛋白分劃, 血清
 lipoprotein 並びに髄液蛋白分劃に関する
 臨床的並びに実験的研究……………関 敦子

’59年 9月 3巻 4号 錐体外路系 (I)
 1000円

James Parkinson (1755~1824)……………檜林博太郎

錐体外路系の概念と歴史……………小川 鼎三
 錐体外路系の解剖……………平沢興・他
 γ系の生理 (錐体外路系の生理の一つの
 ステップとして)……………島津 浩
 錐体外路性疾患の組織化学……………白木博次・他
 Parkinsonismus の臨床……………新城之介・他
 肝レンズ核変性症の臨床
 (本邦における報告例から)……………沖中重雄・他
 錐体外路系に関する薬理学的研究……………原 三郎
 パーキンソニスムスに対する

Chemopallidectomy と
 Chemothalamectomy……………I. R. Cooper et al
 黒核障害例の臨床と病理……………立津 政順

【研究】 大防禦条件反射の脳波学的研究……………長谷川義治
 ’59年 11月 4巻 1号 錐体外路系 (II)
 800円

核黄疽並びにその後遺症としての

脳性小児麻痺について……………有馬正高・他
 Choreatische Bewegung……………安藤一也・他
 Ballism……………荒木叔郎・他
 赤核症候群そのほか……………吉倉範光
 Mangan 及び重金属中毒……………徳臣晴比古・他
 一酸化炭素中毒……………藤井稔・他
 錐体外路系疾患に対する内科的治療……………日高虎之助
 不随意運動症の外科的治療……………半田肇
 定位的蒼球手術……………檜林博太郎

【原著】 点頭てんかん (乳幼児前屈型小発作)
 発作像について……………福山幸夫
 狂犬病予防接種後麻痺症の臨床的研究……………大谷杉土
 知覚の同側性支配に関する実験的研究……………斎藤佐内・他
 癲癇発作時脳波の研究……………淀縄武雄
 臨床脳外科の見地よりみた
 悪性腫瘍の頭蓋内転移について……………野村隆吉・他

60年1月 4巻 2号 展望・脊髓血管障害例

1,000円

展 望

展望間脳の形態学展望……………新見嘉兵衛
動物の行動の神経機構……………今村 護郎
神経化学の分野における展望……………臺 弘
最近の脳神経外科における2,3の問題……………喜多村孝一
てんかん治療の現況……………荒木淑郎・他

脊髓血管障害例

脊椎管内の腫瘍と炎症……………嶋 良宗・他
脊髓血管障害の1臨床例と実験例……………加瀬正夫・他
脊髓の血管障害,特に前脊髓動脈

症候群について……………加藤 洋・他
血液疾患に伴った脊髓出血……………安藤一也・他
油性ペニシリン筋注後に下半身麻痺

を来した1症例……………徳臣晴比古・他
6年間に7回麻痺発作を起した

脊髓血管障害の1例……………斎藤素一・他
急性白血病にみられた脊髓出血の1例……………塚田恒安・他
脊髓循環障害の5臨床例……………関 敦子・他
Spinal Apoplexyと思われた1臨床例……………坂本 敦・他
Spinal Apoplexyの1症例……………前川孫二郎・他
脊髓血管障害の3例……………板原克哉・他

〔研究〕 Glioma の組織培養……………佐藤 文明
位相差顕微鏡による頭蓋内

腫瘍の細胞学的研究……………高野 良介
神経鞘細胞性腫瘍の組織像……………木村 隆吉

頭部外科患者の手術前後の循環血液の

性状並びにそれに対する輸血輸液に

関する研究……………横山 寿雄

〔症例〕 遷延性経過(4日~7日)に示した

疫病脳髓の3剖検例……………白木博次・他

'60年 8月 4巻 3号 神経化学懇話会

まえがき……………秋元波留夫

〔主題Ⅰ γ -アミノ酪酸の生化学〕

動物組織に於ける γ -アミノ酪酸

(GABA)の代謝……………塚田裕三・他

γ -アミノ酪酸の生化学的研究……………山崎晴一郎・他

脳中遊離アミノ酸の研究(予報)……………西 弘・他

γ -アミノ酪酸のインシュリン治療時の

低血糖状態に対する影響……………田中善立・他

in vivo 投与による γ -アミノ酪酸,

γ -アミノ, β -オキシ酪酸, γ -アミ

ノ酪酸コリンの興奮性に及ぼす影

響……………高橋 良・他

〔指定討論〕 脳組織でのアミノ酸の

分離定量法

(1) ペーパークロマトグラフィー

による定量法……………大津 毅

(2) ペーパークロマトグラフィー

による脳内遊離アミノ酸の分
離定量についての検討……………塚田裕三・他

(3) イオン交換クロマトグラフィー

によるアミノ酸の分布……………大月三郎・他

(4) γ -アミノ酪酸の定量, カラムクロ

ストグラフィーによる方法……………成瀬 浣

(5) 高圧汎紙電気法の定量への

応用……………大原 和雄

総 括……………塚田 裕三

〔主題Ⅱ 痙攣の生化学〕

てんかん脳の生化学的研究……………陣内伝之助・他

痙攣準備状態の神経化学的研究……………高橋 良・他

痙攣の神経化学的研究……………秋元波留夫・他

ビタミン B₆ 酵素と痙攣……………牧野 堅他

〔追加〕 Toxopyismidin (TXP) が

痙攣閾値 (EST), 最大痙攣 (MES)

に及ぼす影響……………高橋 良・他

フェノールによる痙攣に及ぼす

フラビンの効果……………八木国夫・他

痙攣の生化学的研究……………山崎晴一郎・他

潜在性痙攣準備状態と脳の

親水膠成分……………清田一民・他

髄液中のプローム化合物, および

その脳疾患, 殊に痙攣との関連

について……………牧野惟義・他

総 括……………秋元波留夫

〔主題Ⅲ 脳局所生化学〕

脳代謝の部位別変化について……………相沢豊三・他

脳の局所生化学的研究……………山崎晴一郎・他

脳に於ける蛋白代謝……………間瀬桂吉・他

ヒト脳各部位の遊離アミノ酸に

ついて……………奥村二吉・他

芳香酸アミンとその合成分解酵素の

神経組織での分布について……………佐野 勇・他

神経細胞内アセチルコリンエステ

ラーゼの細胞学的局在部位の決定……………福田 哲雄

神経刺激伝達物質並びに関連酵素の

脳内分布及び意義……………宇尾野公義

総 括……………相沢 豊三

〔主題Ⅳ 神経薬理学〕

抗コリン・エステラーゼ剤……………茂在 敏司

侵襲とアセチルコリン代謝に

関する研究……………田坂定孝・他

カテコールアミンの神経組織での

トランスポートについて……………佐野 勇・他

ネズミ肝臓ミトコンドリアによる

アドレナリンの代謝……………八木国夫・他

脳セロトニンについて……………田坂定孝・他

クロールプロマジンの脳代謝に

及ぼす影響について……………山崎晴一郎・他

Thiopental, Chlorpromazine 並びに

megimile の脳蛋白質代謝に及ぼす

影響について……………中沢省三・他

覚せい剤中毒の生化学的研究(第5報)……………江副 勉・他

慢性覚せい剤中毒における身体的変化……………臺 弘・他

LSD 抵抗性及び耐性について……………加藤 清・他

周期性精神病に於ける内分泌学的研究……………鳩谷 龍・他

〔追加〕 周期性内因性精神病的脳における

糖代謝の経過的観察……………林 左武郎・他

’60年8月 4巻4号 興味ある症例の臨床と

病理

1,000円

疫癇様疾患(いわゆる自家中毒症の3例を含む)

の脳病理組織学……………白木博次・他

疫癇様症状の既往歴をもつ葉性硬化の

3剖検例……………白木博次・他

家族性黒内障性白痴(晩発幼児型)の臨床及び

組織病理……………近藤重昭・他

変性型汎発硬化症の2症例(汎発硬化症の

研究)……………横井 晋・他

汎発性硬化症(Schilder病)の1例……………菱山珠夫・他

〔綜説〕 脳神経に支配される横紋筋の固有知覚

(プロプリオセプション)について

——その形態学的研究の展望——……………細川 宏

〔原著〕 乳幼児前屈型小発作の発病原因並びに

本態について……………福山 幸夫

乳幼児消化不良性中毒症の脳波——

疫癇様症状の脳波学的研究(2)……………長畑 正道

中枢神経症状を伴う Behçet 氏症候群——

所謂 Neuro-Behçet’s Syndrome の2例

及びその文献的考察……………田中 健・他

〔学会抄録〕 第5回内科神経同好会

〔書評〕 「新生理学」が出た……………若林 勲

’60年10月 5巻1号 神経病理懇話会 1,200円

猫の知覚運動領野からの投射について……………草間敏夫・他

錐体外路疾患—生理学の立場から……………島津 浩

錐体外路系の生化学……………佐野 勇

日本脳炎について〔特別講演〕……………林 道倫

神経病理学の進歩のために……………内村 祐之

Die pathologie des Extrapyramidalen

Systems……………猪瀬 正

Histochemical Aspects of Hepatocerebral

Diseases……………白木博次・他

Histochemical Studies on the “So-Called”

Carminespositive Substance in the Brain

of the Special Type of Hepato-cerebral

Diseases……………石井 毅・他

封入体の組織化学……………浜田 晋

Histological and Histochemical Studies

on the Eosinophilic Intranuclear

Inclusions of the Pigment Cells of the

Substantia Nigra……………石井 毅・他

肝脳疾患の肝病理……………志方 俊夫